

品名	性能	数量	備考
捲揚機	10 ton 捲揚 石油發動機 15HP	1	岸壁裏埋立浚渫土砂捲揚 及び防波堤捨石吊込操作用
同	5 ton 捲揚 電動機直流 15HP	1	浚渫土捨場備付
同	10 ton 捲揚 電動機 15HP	1	鋼矢板打込及び吊込操作用
同	5 ton 捲揚 電動機 10HP	1	同
矢板打杉樁		2	軌條取付足場打用
ポンプ		2	水替用 6' 1 臺, 5' 1 臺
浚渫船		1	
臺船		3	
運搬船		5	浚渫土砂及び材料運搬用

6. 工事執行者 静岡県

7. 計畫設計者 静岡県土木部

8. 工事監督者 土木技手 鶴岡義郎

9. 施行方法 請負: 岸壁鋼矢板打込及び扣版工事 勝呂組  
直営: 他は總て直営施行

10. 起工年月日 昭和 8 年 9 月 1 日

11. 竣功豫定年月日 昭和 10 年 11 月 31 日

## 釜石港修築工事概要

(本文に就ては上野節夫君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

### 1. 箇所名並に工事種類

箇所: 岩手縣上閉伊郡釜石町釜石港

工事種類: 釜石港修築工事

(1) 防波堤: 基礎捨石上鐵筋コンクリート造函塊設置

(2) 繫船岸壁: 水深  $\begin{cases} 3.64 \text{ m} \\ 2.7 \text{ } \\ 1.8 \text{ } \end{cases}$

(3) 護岸工:  $\begin{cases} \text{甲. 防波壁附} \\ \text{乙. 導流塊式} \end{cases}$

(4) 雜工事

(5) 機械設備

(6) 雜費

### 2. 計畫概要

港東方に當る海中に延長 268 m の基礎捨石上鐵筋コンクリート造函塊設置の防波堤を築造し、港内船溜面積を 112 000 m<sup>2</sup> として港口位置を東北に採りその幅員を 110 m とす。

防波堤と直線に接続して延長 121.4 m のコンクリート造護岸を築き堤頭に高さ 1 m の防波壁を設けて護岸内部の埋立地に於ける波浪の浸入抑滞を防止す。港の南方大渡川の放出土砂により港内の埋没せらるゝを遮止するために導流堤式川沿護岸を築設すると共に護岸内部は港内浚渫の捨土砂を利用して幅員 110 m, 延長 180 m の埋立地と爲し川沿護岸と平行して鉄筋コンクリート杭打側版取付けの繋船岸壁延長 164 m を設け尙ほ在來海濱岸に沿ひ同構造の繋船岸壁を築きその内部は浚渫捨土砂を用ひ埋立を施すものなり。

而して浚渫捨土量に應じ埋立總面積を 56 000 m<sup>2</sup> として岸壁の位置を定むると共に出來得る限り船溜面積の擴大を計れり。

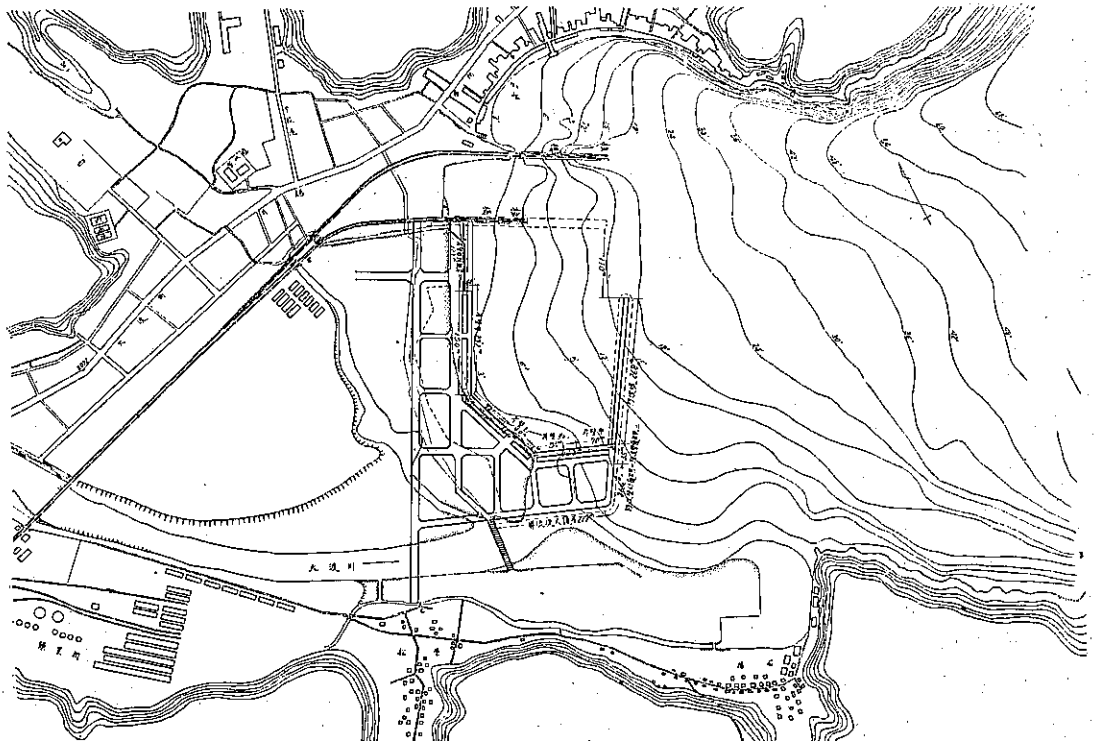
港内は鑛山棧橋附近を除き總て繋船岸壁により圍繞せられ該棧橋に接続する部分 128 m の間、基礎捨石コンクリート壁の護岸とし港口より襲來する波浪の浸害を防ぐものとせり。

各工事種別の大要を記せば

(1) 防波堤延長 268 m, 高さ満潮位上 1.025 m とし、基礎捨石上に高 4 m, 上幅 4 m, 敷幅 6.14 m, 長 12 m の鉄筋コンクリート造函塊 6 個と高 5 m, 上幅 4m, 敷幅 6.4 m, 長 12 m の同造函塊 15 個を築設し、その頭部に於て高 5 m, 幅 4 m, 長 10 m の同造函塊 2 個を併置し上部場所打コンクリートにて満潮位上 1.025 m に達せしむ。

(2) 堤頭防波壁附護岸延長 121.4 m, 高さ満潮位上 1.525 m に採り基礎捨石上に延長 35 m は高 0.7 m, 幅 1 m, 長 1.8 m と高幅各 1 m, 長 1.6 m のコンクリート塊を 2 段積みとし、延長 86.4 m の間は高 0.7 m, 幅 1 m, 長 1.6 m の同塊一段とし、その上に高 2.25 m, 敷幅 1.5 m, 上幅 0.9 m のコンクリート躯体工を施し、その堤

釜石港修築工事一般平面圖



頭に高 1 m, 敷幅 0.9 m, 上幅 0.6 m のコンクリート造り波返し防波壁を築造す。

護岸裏埋は平均厚 1.7 m の栗石を填充しその内部は浚渫土砂を利用し埋立地とす。

防波壁の下端埋立地表は幅 4 m の間基礎栗石詰厚 0.15 m のコンクリート叩きとし、波浪飛沫による掘浚を防止しコンクリート叩きには 5 m 間に径 0.15 m の土管を挿入し波浪の衝撃力を防殺せしむるものとす。

(3) 大渡川沿導流堤式護岸修築工事場の西南端矢の橋より川沿延長 217 m, 高満潮位上 1.325 m, 基礎は松杭打並に捨石を捨込み高 0.5 m, 幅 1.2 m の場所打コンクリート工を施し、その上部に高 1.8 m, 敷幅 0.75 m, 上幅 0.2 m のコンクリート造躯体工を築き内部は浚渫土砂を用ひ埋立地となす。

(4) 繋船岸壁總延長 506 m の内 190 m を水深 3.6 m に延長 138 m は水深 3.6 m より 1.8 m 迄に延長 94 m は水深 1.8 m に浚渫し、その他の 70 m は現在水深のまゝとし(圖に示す甲は水深 3.6 m, 乙は水深平均 2.6 m, 丙は水深 1.8 m) 岸壁の頭端高は満潮位上 1.025 m とす。

構造は幅 0.4 m, 厚 0.45 m にして水深 3.6 m に對しては長 10 m, 水深平均 2.6 m には長 9.4 m, 水深 1.8 m には長 8.5 m の鉄筋コンクリート杭を 2 m 隔に建込み、これに高 1 m 乃至 0.6 m, 厚 0.25 m, 長 1.93 m の鉄筋コンクリート側版を取付けて土留壁を形成せしめ杭には径 38 mm, 長 12 m の繋釘を施して壁を支持せしむ。コンクリート側版の裏込は厚 3 m 乃至 1 m の栗石を填充し、その内部は浚渫土砂を用ひ埋立を施し地表面は岸壁より幅 7.3 m の間貨物積卸の荷揚場としてコンクリート叩きを施し 17 個の繋船柱を設置するものとす。

鉄筋コンクリート杭建込みは杭中央に径 49 mm の瓦斯管を埋設しその先端に径 19 mm の放水管とその附近周圍に径 16 mm の同放水管 4 個を設け径 110 mm 6 段斜タービン・ポンプと 50 馬力電動力を用ひ壓水を前記の放水管より杭頭並にその周圍に放出せしめ該杭を約 3 m 沈下せしめたる後約 1 m を重錘打として建込みを了する計畫なり。

(5) 鑛山棧橋接續護岸延長 128 m 構造は設計中なり。

(6) 埋立地總面積 56 000 m<sup>2</sup>; 表面高満潮位上 1.525 m にして倉庫敷, 道路, 家屋敷等を區劃する計畫とし設計中なり。

### 3. 工事状況

本工事は昭和 7 年度より同 9 年度に至る 3 箇年繼續事業として同 7 年 7 月下旬豫算成立し、修築工事に關する規定並に事務所(工營所と稱す)設置その他諸種の準備に時日を要し、現場着手は同年 9 月中旬となり先づ第一に設計圖書に基き各種工事の位置, 延長, 幅員設定のため測量に取掛ると共に現場に適應すべき實施設計の圖書作製に着手せり。

而して港口附近に現在せる鑛山南棧橋延長擴大の計畫實施の出願あり、本計畫に依れば港口の幅員を 80 m 以下に縮小するの結果となり將來港灣利用の發達と鑛山事業の進展と棧橋利用並に繋留船舶の關係等を推すに港口幅員を擴大し置くの利なるを察知せしを以て計畫平面並に各種工事の設計變更に着手し、工事施行に關する各般の施設は着々としてその歩を進めつゝありしに昭和 8 年 3 月 3 日午前 2 時 40 分に震動せし激震後 20 分に於て襲來せし所謂三陸沿岸大海嘯の爲に全施設物は破壊せられ工事場は全く慘憺たる状態を呈し遶りに死者の散在せるを見たり。その後所員一同の無事を喜ぶと共に互に倍舊の粉身努力を以て復舊に勉めたりと雖も昭和 7 年度に於ては前記の理由に因り工事施行の見るべきもの無きに至れり。

本工事は昭和 8 年度より着手の状態となり圖に示せる工事場南方の大渡川沿護岸延長 217 m と東方防波壁附護岸 121.4 m と當護岸より北方に向ひ設置の防波堤延長 268 m の内 72 m 及び同護岸端より西方に連接せる繋船岸壁延長 224 m を築造するの計畫を樹て基礎捨石の採取捨込み護岸基礎コンクリート工の施行同塊の作造設置, 岸

壁用鉄筋コンクリート杭並に同側版の製作等に關する總ての工事を完了し各護岸の軀體工並に同裏埋と岸壁築造に着手中にして防波堤工は基礎捨石の大部分と鉄筋コンクリート函塊 2 個製作の工事を終り 1 週間以内に函塊進水並に設置に取掛る計畫なり。

### 3. 工 事 費

工 種	數量(m)	工 費			備 考
		勞力費	材料費	計	
防 波 堤	268.00	54 108.700 円	66 132.870 円	120 241.570 円	
岸壁水深 3.64	352.00	18 425.000	22 519.460	40 944.460	
同 " 2.7	60.00	2 777.800	3 395.180	6 172.980	
同 " 1.8	94.00	3 919.400	4 790.400	8 709.800	
物 揚 場 費	344.00	2 289.700	2 798.740	5 088.440	
岸 壁 取 付 岸 護	128.00	3 877.200	4 127.740	7 504.940	
護 岸 甲 の 1	86.40	4 503.700	5 504.740	10 008.440	
同 甲 の 2	35.00	2 414.600	2 951.250	5 365.850	
護 岸 乙	217.00	3 317.200	4 054.380	7 371.580	
浚 渫 費	m 3				工事の請負豫定に付工費記入せず
埋 立 費					"
雜 費					
雜 工 事 費					
機 械 設 備 費					
事 務 費					
計				385 000.000 円	

### 4. 主 要 材 料

品 目	數 量	單 價	納 入 者 名	備 考
丸 鋼	261 ton	93.910 円	釜石鐵山株式會社	
セ × ソ ン ト	18 500 袋	1.300	淺野セメント株式會社	
工 型 鋼	36 本	72.000	東京市日本橋森岡平右衛門	

### 5. 重 要 機 械 器 具

4 吋 6 段掛 50 馬力ゼツト用タービン・ポンプ	1 臺		東京市山口勝藏		
4 吋セントリフューガル・ポンプ	1 臺	198.000	同 人		
10 切練コンクリート混合機	1 臺	1 450.000	東京市淺野物産株式會社		
14 切練コンクリート混合機	1 臺	1 680.000			
12 磅 軌	條	757 m	釜石町菊地巳之太郎	中 古 品	
18 磅 軌	條	455 "	東京市合資會社五十嵐商店		
工 業 船	6	1 隻	152.000	釜石町 三陸汽船株式會社	12ton積み
		1 "	950.000	" 同	100 "
		2 "	695.000	" 石村造船所	25 "
		2 "	950.000	" 佐々木造船所	30 "
監 督 船	1 "	248.000	" 石村造船所		

### 6. 工 事 執 行 者 岩 手 縣

### 7. 計 畫 設 計 者 上 野 節 夫 渡 部 幸 三 郎

- 8. 工事監督者 釜石港工營所 (岩手縣内務部土木課所屬)
- 9. 施行方法 直 營
- 10. 起工年月 昭和 7 年 9 月
- 11. 竣工年月 昭和 10 年 3 月

## 大船渡港修築工事概要

(本文に就ては上野節夫君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

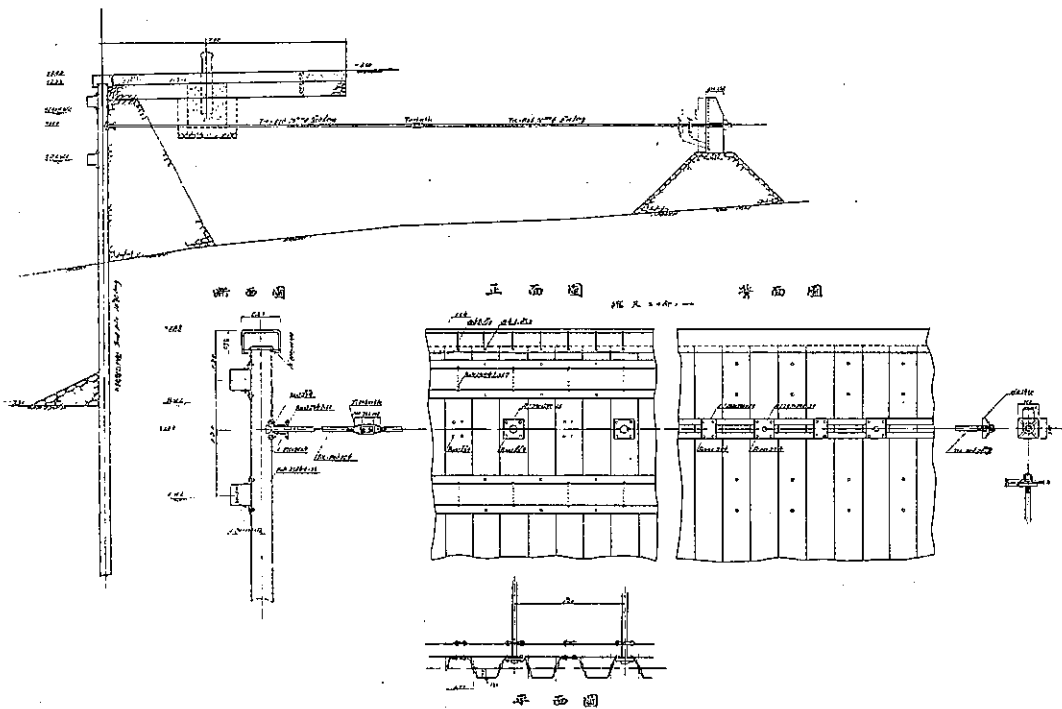
### 1. 箇所名並に工事種類

岩手縣氣仙郡大船渡町地内 港灣修築工事

### 2. 計畫概要及び工事狀況

大船渡港は三陸沿岸の中央部、東經 141 度 43 分 50 秒、北緯 39 度 2 分 26 秒に方る大船渡灣の西北灣底に

第二圖 岸壁 (甲種) 構造圖



あり、本港の船溜として現在利用せられつゝあるは主として灣入せる西北の大船渡町に面せる沿岸にして、灣内水深概して大なるを以て船舶の入津航行自在なりと雖も荷揚場その他の設備の見るべきもなく、昭和 9 年度に於て完成せらるべき鐵道大船渡線の實現に伴ひ、益々海陸運輸の輻輳を來すは明かなるも、陸上の地域狹隘にして海陸連絡設備を施すべき餘地なきを以て、地方産業の進展を阻害すること大なるものあり、而して茲にこれが完成を